

富士

March
2025

3

[第647号]



表紙写真／第15回富士山百景写真コンテスト 入選作品

タイトル：花びらの円舞曲

エリア：岩本山公園

撮影者：高山園江さん

提供：富士市

Contents

- ❷ 活動レポート
- ❸ 経営支援情報
- ❿ トレンド通信
- ❶ かんたん解説！水崎先生の知財講座
- ❷ 新入会員紹介
- ❸ 商店街情報

経営に役立つオトク情報を
メールでお届け！

支援施策・セミナー
など最新情報を毎週
木曜日に配信してい
ます。



QRコードから
ご登録ください。

富士市の原風景「11」にあり!!

工場内部&工場夜景見学ツアー開催

去る2月15日(土)、富士商工会議所企画立案で「工場内部&工場夜景見学ツアー」を実施し、市内外より28名が参加しました。今回のメイン企画は工場内に立ち入り、間近からプラント設備を見学するという内容で、日本食品化



間近で工場プラントを眺める参加者たち

工(株)富士工場と高尾丸王製紙(株)本社工場を訪問しました。バス車内では、富士工場夜景倶楽部の鷺見隆秀さんによる富士市の工場夜景に関する解説付きで市内を周遊しました。



製造工程の説明を受ける参加者たち

日本食品化工(株)富士工場では、同社の労務課係長の藤木紀治さんに乗車していただき、工場の解説を受けながら工場敷地内をバスで移動。迫りくる配管の数々に、車内からは感嘆の声が上がりました。その後、岳南電車へ乗車し、車両の一部を消灯して夜景電車を体験。岳南沿線の工場夜景を堪能し、原田駅比奈駅間の名物「パイプライン」を鑑賞しました。高尾丸王製紙(株)では、渡邊典正社長と三浦孝浩工場長より工場案内を受け、同社の製造物や再生紙の仕組みについて理解を深めました。見学では富士工場夜景倶楽部のメンバー6名もサポートチームとして参加していただき、工場夜景ファンの方々と交流を深め、一部のエリアで撮影も実施。参加した方々からは「日本食品化工は国道1号線から眺めるプラント群がととても素敵。一度工場内に入ってみたいかった。工場内の迫力はとても凄かった」「高尾丸王製紙の工場内は凄かった。製紙の工程をはじめて見た。今日は参加して良かった」「富士市の製造業と工場夜景はとても凄い」等の声が寄せられました。



富士市の観光情報を集めたWEBサイト「NEXT FUJI」で、新たに富士山夢の大橋の特設ページを作成しました。駐車場やトイレ等のアクセス情報の他に、せっかくながら富士までお越しいただいた来訪者を市内商店街に周遊させたく、富士駅周辺と吉原商店街周辺の情報を公開しています。

引き続き、市内観光情報を公開していきますので、是非ともお気に入り登録いただき、また富士山夢の大橋を訪れる方々にご周知いただけます幸いです。

△注意
夢の大橋の周辺は住宅地となっております。また、駐車場のアクセスは一方通行となっておりますので、お車で訪問する際は進行方向にご注意ください。



<https://nextfuji.com/>

富士山夢の大橋特設ページオープン!!

問合せ／富士商工会議所 商業観光課
Tel. 054515210995



「エキキタテラス vol.11」× 富士本町軽トラ市が開催されました



こたつでくつろぐ子供たち（富士タクシーにて）

2月2日(日)、富士本町商店街の周辺でエキキタテラスが開催されました。

あいにくの天候の中スタートとなり、内容を一部変更したところもありましたが、徐々に回復し多くの方にご来場いただくことができました。また、富士本町軽トラ市と同日に開催されたことで様々な目的を持った方たちが富士駅北地区に集まり、目指すべき街の姿を垣間見ることができた気がします。

今回のエキキタテラスは、こたつエリアやカイロづくりワークショップ、キックターゲットなど、冬でも快適に屋外空間を満喫できる企画を用意しました。真冬の寒さの中でも滞留してくれるかという不安もありましたが、想定を上回る来場者の多さと滞在時間の長さを実感することができました。昨年8月開催時に交流プラザの軒下に風鈴を設置したことに引き続き、季節に合わせた雰囲気づくりに手ごたえを感じました。

また、富士駅北口ロータリー周辺には、こちらも同じく昨年8月開催以来となる期間限定のくつろぎ空間が設置され、課題となっている「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりの日常化」に向けた試みが行われました。

さて、エキキタテラスはこれまで11回の開催を通して成果も徐々に見えてきていますが、依然富士市の玄関口の再開を自分事にかけている市民が不足しています。共に考えたり、実行したりすることは難しくても、周りの方に「今富士駅の北口はこんな風に生まれ変わろうとしているよ」や「ようだ」とお話いただくところからまずは始めてみませんか。

〜日本酒祭りも同時開催〜 第10回 吉原まるごとマルシェ開催

去る2月9日(日)、吉原商店街を会場に第10回吉原まるごとマルシェが開催され、天候にも恵まれおよそ1万人の来場者で賑わいました。

当日は、7つの酒蔵が集めた日本酒祭りも同時開催され、市外県外の7種類および能登で被災を受けている酒蔵からも商品を取り寄せ試飲サイズで日本酒を提供しました。メインのマルシェではこだわりの商品提供する53の事業者が集まり、自慢の料理や野菜、物品を販売いたしました。また、ご当地グルメコーナーでは、地元の富士つけナポ



リタンをはじめ、三重県亀山市の亀山みそ焼きうどん、長野県伊那市の山賊焼き・御柱カレーパン、静岡県西伊豆町のしおかつおうどん・名物わさび井が提供され、多くのお客様にお買い求めいただきました。

本イベントは、2017年に開催されたB-1グランプリin富士のプレイベントとして開催されたもので、本年度10回目を数え出店者の顔ぶれを変えながら様々な工夫を凝らして、来場者も増加傾向にある商店街イベントとなっております。主催者は来年のイベント成功に向けて抱負を述べていました。



キャリアカフェ 令和6年度報告

背景

● 富士地区唯一の工業高校である吉原工業高校は1938年の開校以来、富士地域の産業界にモノづくり人材を輩出してきたが、少子化の進展により入学者が減少し、定員割れの状況が続いている。

● 富士商工会議所では、工業都市である富士市が持続的に成長発展していくためには、同校の存続が重要課題であるとして令和6年度より「吉原工業高等学校の維持・発展に向けた取り組み支援」を行っていくこととした。

● OBOGとカフェメニューを囲みながらの対話に、生徒からは「質問もしやすく、いい雰囲気です楽しむことができました」「来年も来てほしい」という意見があった。

● 参加した生徒へのアンケートでは「とても参考になった」が72%であった。また、参考になった内容についての回答は「社員の方との会話(76人)」「会社説明(60人)」「資料(49人)」の順となった。(複数回答可)

● 生徒から社員への質疑応答では、給与や休暇など参加企業の労働条件についての質問の他、高校時代に学んでおくべきこと、資格取得や休日の過ごし方といった身近な先輩からしか聞き出せない質問が多く出た。

● 地元で就職した同校OBOGが地元企業で働く魅力や入社後のきつかけ、製品紹介を聞きながら気軽に話すことで、人生の「ロールモデル(手本)」に触れ、主体的な学びに繋げることを目的に実施。

● 令和6年度は放課後に8回実施し、15社が参加した。

● OBOGからは学校生活を通しての経験が社会人になっても活かすことがあり、あいさつや規律などを大切にしようアドバイスがあった。また、就職活動や学校を卒業してから感じたことをもとに、資格取得や勉強についてエールをおくる場面も見られた。



開催日	参加企業		参加者数
第1回 (2024.5.31)	東名電機グループ		42人
第2回 (2024.6.19)	興和(株)	日本製紙パピリア(株)	27人
第3回 (2024.9.10)	(株)サムウエイ	(株)エフエイ・トムス	35人
第4回 (2024.9.25)	(株)ダイワ・エム・ティ	日本食品化工(株)	27人
第5回 (2024.11.19)	富士化工(株)	マルスン(株)	33人
第6回 (2024.12.17)	(株)富士ロジテックHD	明産(株)	22人
第7回 (2025.1.31)	(株)ホンダクリオ富士	トヨタL&F静岡(株)	42人
第8回 (2025.2.19)	ジェイカムアグリ(株)	旭化成(株)	

キャリア教育
産学官連携事業

～(株)ホンダクリオ富士・トヨタL&F静岡(株)が参加～ 第7回「キャリアカフェ」を開催

主催：富士商工会議所・吉原工業高校 後援：富士市



エンジンルームを観察



部品の溶接に関心が集まる

去る1月31日(金)、第7回目のキャリアカフェを開催しました。

今回は(株)ホンダクリオ富士(自動車販売)、トヨタL&F静岡(株)(フォークリフト等の販売・リース他)の2社が参加し、本事業初となる車両展示を行い、40名を超える生徒が集まりました。

(株)ホンダクリオ富士は、店舗で働く営業やサービスタッフといった社員の役割について紹介し、参加した生徒から求める人材について質問されると担当者は「会社にいる時間は1日において最も長い時間、会社の雰囲気にかどうかを重視している」と回答しました。
トヨタL&F静岡(株)で働くOBは

「今は店内での修理や整備を担当しているが、技術を磨いて得意先で整備を行うエンジニアを目指している」と目標を語り、生徒たちに資格の取得や勉強を勧めていました。

説明後、生徒たちは屋外に展示された「シビックタイプR」と「電動フォークリフト」の運転席に交代で座ったほか、エンジンルームを覗き込んだり車の搬出時間間際まで担当者と車の特長について話し込むなど、終始興奮冷めやらない様子でした。

富士商工会議所は今後も、生徒が将来について考える機会を多く提供し、今回のような体験を通じて富士市で就職を希望する生徒の後押しができるよう努めていきます。

出会いの機会を創出

縁むすびん婚活パーティー開催

去る2月7日(金)、ホテルグランド富士において「縁むすびん婚活パーティー in Fuji」を開催し、結婚に前向きな男女、約50名の方が参加しました。

冒頭、主催者を代表して増田副会頭が挨拶を行い、ご自身の経験談についてユーモアを交えてお話しされ、それまで緊張した様子だった参加者からも笑顔が見られ、なごやかな雰囲気ですパーティーが始まりました。

パーティーはそれぞれの自己紹介から始まり、その後は席替えやゲーム、食事を通じて交流を深め、2時間30分の長時間にも関わらず終始盛り上がりを見せました。開催後に行ったアンケートでは、「異性と話すきっかけになった」「お食事もおいしく、とても楽しい時間を過ごすことができた」との声が寄せられました。

本事業は人口減少時代における地域の労働力・後継者不足に組織的対応を図ることを目的に平成28年度から開始し、過去には結婚に結びついたペアも誕生しております。



富士市のものづくり企業展示会

「ものづくり力交流フェア2025」開催

去る2月7日(金)・8日(土)にふじさんめつせにて「ものづくり力交流フェア2025」が開催され、2日間で5500人が訪れました。

ものづくり力交流フェアは富士市のものづくり産業を支える企業の優れた製品や確かな技術を市内外に広くPRするとともに、企業間の交流促進や将来の「ものづくり」の担い手づくりの契機として産業振興を図ることを目的に隔年で開催しています。4回目となる今回は、115社・団体が出展し過去最多となりました。



パネルディスカッション後の記念撮影



吉原工業高校による体験ブース

会場では学生を対象としたブース見学ツアーや若手社員との交流イベントも開催され、富士市での就職を考える若者が参加しました。また、吉原工業高校の生徒による体験ブースもあり、多くの親子連れがものづくりの面白さに触れて楽しんでいました。

市内のものづくり企業が紙や金属など分野ごとにブースを並べて製品などの紹介をしたほか、植物由来の新素材として注目されるCNF(セルロースナノファイバー)やSDGsに関する展示も行われました。

ステージでは小長井富士市長、静岡大学の日詰学長、当所の富田副会頭(旭化成(株)富士支社長)が参加して産学官連携パネルディスカッションが開催され、富士市の産業発展について話し合われました。

富士山ライブ映像配信!



富士商工会議所の屋上からの映像(YouTube)を(一社)共同通信社様の公式ページでライブ配信しています。

富士山の様子を4Kによるライブ映像で24時間見ることが可能になりました。

是非富士山の移り変わる様子をご覧ください!

(下記のURLとQRコードから映像を見ることが可能です。)

<https://www.fuji-cci.or.jp/2025/02/10/>

富士山ライブ映像配信! /

富士山ライブカメラ映像



第三月曜会 令和7年4月公開例会 参加者の募集について

富士商工会議所の会員有志が集う勉強会「第三月曜会」では現在、令和7年4月に開催される公開例会の参加者を募集しています。

4月例会のテーマは「CNF(セルロースナノファイバー)」。

CNFとは、植物を原料とする極めて細かい繊維状物質で、軽くて強度があり環境負荷も低いことから、様々な製品への活用・普及が期待されている新素材です。富士市の基幹産業である紙パルプ産業はCNFとの関連も深く、現在CNFの用途展開や産業の集積化について研究・検討が進められています。

【日時】 令和7年4月21日(月) 11:00~(約60分)

【会場】 富士商工会議所 4階会議室

【講演】 『CNF研究開発』、『しずおか・もくまる製作』から見る地域創生に有効なフレームワークを考える

【講師】 静岡大学農学部 特任教授 西村拓也氏

【参加料】 無料 **【定員】** 40名(先着順)

【申込方法】 下記申込フォームよりお申込みください。

<https://ws.formzu.net/dist/S88638098/>

【申込期限】 令和7年4月14日(月)

お申込みはこちら





富士製紙協同組合

産業廃棄物「ペーパースラッジ」焼却灰を 肥料として農林水産省へ登録

1月27日(月)、当所4階にて、富士製紙協同組合が、製紙工場内で生産過程に発生する産業廃棄物ペーパースラッジの焼却処理後の灰を、農作物等の肥料として農林水産省に登録、純国産肥料「セイチヨ一君」と命名し、誕生したことを発表しました。



山本久也理事長

ペーパースラッジ(PS灰)とは

ペーパースラッジ(以下PS)は、製紙工場内で古紙からトレットペーパー等の再生紙を製造する際に、排水中に流出した短繊維や無機物を濃縮し脱水した産業廃棄物。同組合の設立以前は埋め立て処理していましたが、PSは含水率が約55%と高く、環境への影響が危惧されたことや、埋め立て地の不足により焼却することとなりました。現在、同組合が運営する4機の焼却炉で焼却処理することにより、減容量化を実現しています。

産業廃棄物を再利用へ

焼却炉の排ガスの熱を活用し乾燥させた乾燥PSは、牧場の敷藁の代用や牧草の飼料への混合剤、建設資材等に利用、またPS灰はセメント資材や表面の多孔質という性質を生かし、脱臭剤や保水材など多岐にわたり再利用されています。



セイチヨ一君

「セイチヨ一君」の誕生

同組合は、SDGsの実現や2050年カーボンニュートラルへ向けた取り組みとして、乾燥PSやPS灰のさらなる再利用の可能性を追求してきました。令和4年6月より、静岡大学、静岡

県農林技術研究所、(財)アグリオーブインノベーション機構、肥料研究所及び認定支援機関である富士信用金庫の産・学・官・金で連携し、PS灰にリンや窒素、カリウムが含まれることから、純国産肥料としての試験研究を重ねてきました。その結果、令和6年10月に農林水産省より肥料登録許可が下り、この肥料から樹木や農作物が「成長」する姿を想像し、「セイチヨ一君」と命名されました。

新たな可能性の追求、カーボンニュートラルへ

「セイチヨ一君」は、現在ゴルフ場や圃場、水耕栽培場へ配布されており、今後の展開について更に研究を進めていく予定です。同組合の山本久也理事長は、「昔から公害問題があった富士市で、産業廃棄物が肥料になると認可されたことは非常に画期的なことと感じている」と、地域の資源循環の意義に触れながら話されました。